

論壇

社会的課題へ取り組み

SDGs投資やESG投資などの言葉を聞くことが増えている。SDGsはSustainable Development Goalsのことで、環境問題や貧困撲滅などの社会的課題を整理し、持続的成長に必要な条件について国連で採択された目標だ。これについては少し前にこの欄で取り上げた。ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)のことで、企業の長期的な成長のためにはこの三つの観点が重要であるとされている。

SDGs投資やESG投資と

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

は、こうした視点から高い評価を下せる企業に積極的に投資しようというのだ。興味深いのは、環境への対応など、企業の目先の利益にはマイナス要因になるようなことでも、それに積極的に取り組む企業に積極的に投資しようというファンドが多くあるということだ。日本の金融機関でも、SDGsの視点で評価できる企業を中心に

SDGs投資とESG投資

に組成した投資信託を販売しているところもある。環境問題や教育問題など、社会的な課題に積極的に取り組む企業が高く評価され、そうした企業に資金が流れていくような仕組みが構築されることは素晴らしいことだ。企業と言えども人間の集まりである。地球環境の影響を受ける

し、教育や貧困などの社会問題からも無縁ではない。そうした社会的な課題に無関心で、目先の利益のみを重視する経営の企業が持続的な成長を続けることができるはずはない。また、企業の中で働いている人にとっても、自分たちのやっていることが社会的な課題の解決に大きく貢献しているというのであれば、それだけ自分の仕事

企業行動に大きく影響

にプライドが持てるはずだ。そうした前向きの企業を探して積極的に投資しようというのがSDGs投資やESG投資ということであれば、納得のいく考え方だ。欧州などでの国際会議に参加しているときよく言われることだが、日本では環境問題などに対して社会の関心が薄いという。温暖化が

スの削減にしても、プラスチックごみへの対応についても、欧州などから見ると日本の動きは非常に鈍く見えるようだ。環境問題は企業が積極的に動くことが有効である。政府の政策に対応して動くだけでなく、企業や市民が自ら積極的に行動することが必要となる。

るようになり、投資資金も集まりやすくなる。高い利益や売り上げを上げることで、これまでのよい企業の判断基準であった。もちろん、これからは利潤や売り上げは企業の業績指標として重要である。しかし、SDGs投資やESG投資の流れは、それだけでは十分ではないということも主張する。社会的な課題に積極的に取り組み、社会に貢献することができない企業は、持続的な成長を続けることはできないのだ。社会にとって企業の存在は大きい。資金力でも、技術でも、人材でも、圧倒的な影響力を持つ。企業が社会的課題に消極的であれば、その社会の質も劣化するだろう。そうならないためにも、SDGs投資やESG投資の流れをもっと広めていく必要がある。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。